

「青年農業者と東北農政局との意見交換会」概要

日 時：令和2年10月26日（月） 13:30 ～ 16:00

場 所：仙台合同庁舎 A 棟 7階会議室

出席者

<青森県> 南風農園 水野 美香 さん
<岩手県> 南澤果樹園 山崎 慎弥 さん
<宮城県> 平松農園 平松 希望 さん
<秋田県> 奥山農園 奥山 和宣 さん
<山形県> 渡辺農園 渡辺 初子 さん
<福島県> 林 玄三郎 さん
<東北農政局> 内田局長、小林局次長 他

概 要

東北農政局は令和2年10月26日（月）に、仙台合同庁舎A棟（仙台市）において「青年農業者と東北農政局との意見交換会」を開催しました。

この意見交換会には、東北地域の青年農業者6名にご出席いただき、ご自身の農業経営の特徴や課題、農業を通じた魅力ある地域づくりの取組及び次世代を担う農業者を育成・確保するためのアイデア等について、意見交換を行いました。



1 自身の農業経営の特徴や課題について

<南風農園 水野 美香 さん>

- 無農薬栽培を実施し、独自の販路を保有することで利益率を拡大している。（2018年に有機JAS認証取得済み。） 今後は、地域の冷涼な気候を生かし、夏にんじんの出荷を増やしたい。
- にんじんジュースに係る委託費の回収に伴うキャッシュフローの改善、収穫や除草作業への人手不足及び臨時雇用者の高齢化が課題である。



<南澤果樹園 山崎 慎弥 さん>

- 環境にあった品種を導入するなど、試行錯誤しながらりんご栽培を中心に経営している。
- 果樹試験場で学んだ知識や研修生仲間との情報交換から、妥協を許すことなく、「うまいものでないと売れない」という自身の考えのもと、生産している。
- 「おいしいりんご」であることをどのように消費者に伝え、販売に結びつけるかが課題である。
- 熊による農作物の被害が増加している。被害をなくすため、夜中に3度、園地の見回りを行っているが、深夜の見回りは体力的にも大きな負担になっているため、有効な鳥獣害対策をお願いしたい。

<平松農園 平松 希望 さん>

- 「土づくり、ものづくり、人づくり」を経営理念に、将来的には新規就農者の視察や研修を受け入れる農園運営を目指していきたい。
- 農業生産、就農定着、食農教育、農福連携、C S A（農家と消費者のコミュニティ）の5つの事業を展開したい。
- 東日本大震災による防災集団移転跡地を2021年に市から借り受けて活用する予定であるが、震災前は宅地であったことから瓦礫も多く、土作り等に課題がある。
- 農家への情報は、途中で途切れることのないようにしてほしい。



<奥山農園 奥山 和宣 さん>

- 妥協せず、こだわりを持ち、愛情を惜しまないことを心情に、品質を重視した作物の生産を行い、所得率の向上を目指している。
- (株)CRAS では、「三関（ミツキ）せり」を中心に、地域ブランドの品質向上、冬場の雇用確保及び安定した生産体制の構築に取り組む。

<渡辺農園 渡辺 初子 さん>

- 生産者の傍ら、2020年1月に会社を設立し、らでいっしゅぼーやと生産者をつなぐ事業を展開。事業を軌道にのせるためには、契約農家を増加させることが課題となっている。
- 鳥獣害や天候不順により、作柄が安定せず、輸入花粉や燃料費等の経費が増加している。

<林 玄三郎 さん>

- 需要と供給のバランスにとらわれずに、出荷期間を通じて、定量出荷につとめることで、作業の安定化と無理をしない働き方をしている。
- 就農1年目での課題を整理し、試行錯誤しながら生産している段階。早期に自分の作型を確立することと、今後、面積も拡大していきたい。
- 村では、冬場の収入の確保が課題となっている。



2 農業を通じた魅力ある地域づくりの取り組みについて

<南風農園 水野 美香 さん>

- 2013年から八戸市による「糠塚（マガツカ）きゅうり生産伝承会」に加入し、栽培に取り組んでおり、農園独自のイベントを実施するとともに普及活動に取り組む。
- 保育園向け、行政主催のツアーの受入れ及び農園独自のにんじん収穫体験を実施。

<奥山農園 奥山 和宣 さん>

- 平成 20 年から地域の若手農業者と一緒に「三関果樹勉強会」（現在 24 名所属）を立ち上げ、ふるさと納税の返礼品として、農産物の販売を実施。
- 冬場の雇用をつくるため、(株)CRAS を設立させ、三関せりの栽培を進めるにあたり、“クラウドファンディング型ふるさと納税”の仕組みを、農業分野としては全国で初めて活用し、せり用のハウスの建設資金を確保した。課題としては栽培面積の拡大である。



<平松農園 平松 希望 さん>

- 様々な関係者と農業者がネットワークをつくり、地域や農家が農業者を育てる拠点を作り、就農定着支援に力を入れたいと考えている。

<渡辺農園 渡辺 初子 さん>

- 少子化を受け、地域の小学校が今年度で閉校する。
- 今後、山形大学の協力をいただき、地域住民と一緒に廃校後の活用策を検討していく予定である。



3 新型コロナウイルスや自然災害に対する取り組みについて

新型コロナウイルスの農業に与える影響としては、外食産業向けの販売が少なくなり苦勞されている方や、インターネット販売などが好調だったというお話がありました。また、今年は長梅雨や高温といった天候不順により、作柄に影響が出ているというお話もありました。これらのリスクに対しては、圃場や販売先をかえるなど柔軟に対応し、リスク分散を行う工夫をされているという話をいただきました。

<南澤果樹園 山崎 慎弥 さん>

- 産地直売所が自宅に併設しており、新型コロナウイルスの影響は少ないと思っている。
- 夏場30℃以上の高温が続くと、りんごが“日焼け果”となり品質が低下し、商品価値がなくなる。このため、気候変動には品種選択と栽培技術で対応していく。



<林 玄三郎 さん>

- 新型コロナウイルスの影響があるのか、昨年より価格の変動が激しいと感じている。
- もともと冷涼な地域であるが、かすみそうの開花のタイミングがずれることがあった。おそらく今年の高温が影響しているのではないかと感じる。
- 台風によるハウスの損壊も心配である。

4 次世代を担う農業者を育成・確保するためのアイデアや意見等について

<南風農園 水野 美香 さん>

- 新規就農者を巻き込みながら、夏にんじんの産地化と販路を確立させ、収入を安定させたい。そして、新規就農者の一番の課題となっている「安定した利益の創出」に貢献したい。
- 農的なくらしにあこがれがある人もいるので、「農業をする人」、「農業に興味のある人」を増やしていきたい。「半農半X」的な暮らしを推進してはどうか。

<南澤果樹園 山崎 慎弥 さん>

- 自分自身が稼げるロールモデルとなり、YouTube や Facebook 等を通じてさらに発信していきたい。発信するための企画やプロデュースを行える人材等、異業種の人とつながりをもちたい。

<平松農園 平松 希望 さん>

- 就農したい人が気楽に農業を始められるよう、就農へのハードルを下げる必要がある。
- 地域の農業法人にも協力いただきながら、地域で就農する人を育てていきたい。

<奥山農園 奥山 和宣 さん>

- 市内の3法人と業務提携を行い、農閑期の労働力を融通させ、年間雇用を実現。
- 農産物の生産者から農業経営者となり、5K（こだわり・興味・感動・稼げる・カッコいい）を実現し、農業を子供がなりたい職業第1位にしたい。

<渡辺農園 渡辺 初子 さん>

- 「やまがた農業女子ネットワーク」の設立メンバーである。山形県内の女性農業者の交流を通じて、自身の農園の経営発展や、農業を志す若手の育成のため職業としての農業の魅力を伝えている。
- 子供達が農業に興味をもっている。農業はつらいことや大変なこともあるが、楽しく農業を行う姿を子供達に見せていきたいと思っている。

<林 玄三郎 さん>

- 地域で営農している人が、楽しく農業を行っていることが大切だと思っている。
- 国による「次世代人材投資事業」や、地域内での農業機械の貸し借り、及びJA担当者等の手厚いサポートがあるので、心配事がなく、かすみそうの栽培を行うことができる。

